このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。

さっぽろ　＜第１回定例会＞
市議団ニュース

２０１６年３月 28 日
Ｎｏ．１５７
日本共産党札幌市議団 事務局
tel 211-3221／fax 218-5124

「高架下に保育所は作るべきでない」――安心して預けられる保育環境の整備を

伊藤りち子議員が質問

日本共産党の伊藤りち子議員は 24 日、予算特別委員会でＪＲの高架下にある保育所の問題について質問しました。

伊藤議員は、「国の公表分の２倍に及ぶ隠れ待機児童が４万９千人いる」と報道された問題で、保護者の代表が″望むのは質の高い認可保育所″と話していることを紹介。「本市が考える″保育の質″とは何か」と質問。**野島子育て支援新制度担当部長**は、「保育室の面積や専門知識を有する保育士の配置などの要素で構成される」とのべました。

伊藤議員は、「本市には高架下の保育所が３カ所ある。高架下でよく利用されているのは駐車場や自転車置き場、居酒屋、倉庫などだが、日が当たらない、騒音がひどい、高圧線があるなど、およそ子どもが健康に育つ環境としてふさわしいのか疑問」とただしました。

野島部長が「基準を満たしており保育の質は確保されている」と答えたのに対し、**伊藤議員**は、自ら視察して「まず驚いたのは、高架下の居酒屋の隣でプレハブのように見えたこと。両脇は道路で交通量も多く、排気ガスと車の騒音が反響し、園庭は金網で囲われて真ん中にはコンクリートの柱が２本もある」「老朽化でコンクリート片の落下が実際におきているが、点検や安全対策は行っているのか」とただしました。

野島部長は、「ＪＲの関係機関が安全管理をしているもの」と答弁。**伊藤議員**は、「設備だけでなく、園のまわりの環境もしっかり見るべき」「求められているのは安心して子どもを預けられる環境を整備することであり、高架下の保育所は作るべきでない」と求めました。

「子どもの貧困対策計画」――関係団体などに足を運び、実効性ある計画に

小形かおり議員が質問

日本共産党の小形かおり議員は２４日、予算特別委員会で「子どもの貧困対策計画」（2017 年度中に策定）について質問しました。

小形かおり議員は、「アベノミクスのもとで日本の相対的貧困率は 16.1％、６人に１人が貧困ラインを下回り、一人親家庭の子どもの貧困率は 54.6％とＯＥＣＤ加盟３４ヵ国中最悪」と指摘、「本市でも貧困化が子どもたちにさまざまな形で表れていると思うがどう認識しているか」また、「どんな課題意識を持っているのか」とただしました。

岡部子ども育成部長は、「子どもの将来が生まれ育った環境に少なからず左右されると認識している」「貧困が世代を超えて連鎖することがない社会の実現にむけ、努力していかなければならない」と答えました。

小形議員が「『子どもの貧困対策計画」の策定に向けて、無作為に 2000 世帯をアンケート調査するというが 20 歳未満を持つ世帯は約 20 万、増やすべきではないか」「計画を作成するにあたり、関係団体から聞き取りをするというがどのような観点で行うのか」とただしました。

岡部部長は、「工夫して回収率を向上させ、貧困の状態にある子どもたちを支援する関係者の声を聞く必要がある」と述べました。

小形議員は、「本市でも大谷地、麻生、豊平など、すでに『子ども食堂』がはじめられている、地域で支援をすすめている民間団体含めあらゆる関係機関に足を運ぶことが大切。目標数値をもち実効性のある計画に」と求めました。